

寅彦の見た風景

野村 学

【紺屋町編】

「我は順と自転車借りて比島近くへ行く。

順の乗りたる車の把手きまらず、其為紺屋町迄帰りし時某店の店先に倒れかかり油揚幾個を地上に飛ばし玉子を砕き、豆腐一丁は金物の上に飛び行けり。」

(明治 29 年 5 月 3 日の日記・「寺田寅彦全集」第 18 巻 1998 年より)

この日、寅彦は甥の順と比島までサイクリングに出かけたものとみえる。その帰り道、順は自転車の不具合からか紺屋町で物損事故を起こしてしまう。その様子を寅彦は冷静かつ淡々と日記に記している。

順が事故を起こした現場はどの辺りだったろうか。写真中央の道路に面した両側の町が旧紺屋町。昔の町名は通りに面して付けられることが多かった。昭和 47 年 7 月 1 日に改称された際に分割され、道の左側（南側）が高知市はりまや町 1 丁目、右側（北側）が同はりまや町 2 丁目となった。



『高知城下町読本-改訂版』（高知市 平成 16 年 11 月 1 日）によると、紺屋町は「城下町建設当時、曾我六兵衛他の紺屋が何人か住んでいたことに由来する町名」とのこと。また月刊『土佐』第 43 号（和田書房・1998 年）には「当初は、紺屋の座が置かれていたが、次第に荒物商が多くなっていった。」とある。事故



現場はこの辺りに立ち並ぶお店の一つだったのだろう。

さて、その紺屋町もはりまや町に改称され、今はただコインパーキングの看板にその名を残すのみである。



【車瀬編】

「昼過徒歩車瀬の方より帰る。額汗ばむ程の暖かさなり。久し振りにて小高坂を通る。ありし家の大かた畑となりて哀れなり。」

(明治 35 年 4 月 19 日の日記・「寺田寅彦全集」第 18 巻 1998 年より)

この日、どこへ出かけていたのか寅彦は昼過ぎに車瀬を通り小高坂を經由して自宅に帰ったものと思われる。恐らくこの車瀬橋を北へ渡ったのだろう。この橋の架かる江ノ口川を境にして北側（写真左側）が旧小高坂村西町（現高知市西町）、南側（写真右側）が旧北奉公人町（現高知市上町4丁目または3丁目）。写真の橋は「昭和八年六月架換」とあり、残念ながら寅彦が渡った橋そのものではない。

高知市広報「あかるいまち」2000年3月号掲載の高知市歴史散歩195「車瀬の水車」（広谷喜十郎）には、「元禄12年（1696年）に境町商人の桔梗屋新右衛門が上町にある北奉公人町の長泉寺境内の水路に水車を設けて、綿実をもって油を絞ったの



で、これにちなんで車瀬と名付けられ、その近くに架けられた橋を車瀬橋と呼んでいる。」とある。

現在車瀬橋の南詰西側には車瀬公園（昭和24年3月31日設置）が整備され、公園内には水車のモニュメントが設置されている。おそらくこの公園付近に水車が架けられていたのだろう。寅彦の当時に水車があったかどうかは定かでない。

【追手御門編】

「(略) 帰り途ニ追手御門ノ傍ニテ又々大雨（此度コソホントヲノ）ニ出逢ヒ門内ニ逃ゲ込ミ、菓子売リノヲバサンニ火ヲ借リ二三服。」

（明治25年5月15日の日記・「寺田寅彦全集」第18巻1998年より）